

第七回

あなたにあいたくて 生まれてきた詩コンクール

—こばはやさしく、こころはふかく—



作品集

平成二十八年度

装画 黒田 征太郎

第7回

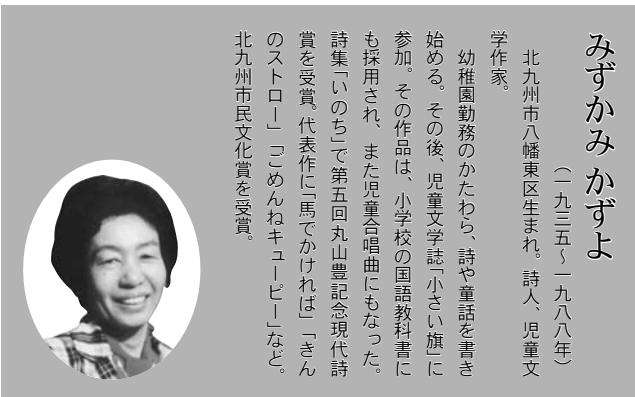
「あなたにあいたくて生まれてきた詩」

コンクール

— ことばはやさしく、こころはふかく —

平成28年度

作品集



みづかみ かずよ

(一九三五～一九八八年)

北九州市八幡東区生まれ。詩人・児童文學作家。

幼稚園勤務のかたわら、詩や童話を書き始める。その後、児童文学誌「小さい旗」に参加。その作品は、小学校の国語教科書にも採用され、また児童合唱曲にもなった。詩集「いのち」で第五回丸山豊記念現代詩賞を受賞。代表作に「馬でかけは」「きんのストロー」「こめんねキューピー」など。北九州市民文化賞を受賞。

北九州市戸畠区生まれ。本名 古賀照一
詩人・評論家・仏文學者 翻譯家。
東京大学哲学科卒業 詩集『炎える母』
で歴程賞を受賞。晩年には『響灘』など一
行詩の作品を発表。また古今東西を超えた
美術評論を行い、著書に『日本の美』、その
夢と祈り』などがある。また翻訳ではエミー
ル・ゾラ、モーリヤン、ロマン・ロラン、
アガサ・クリスティの作品のほか、ロラン・
バルト『表徴の帝国』なども手がけた。詩
歌文学館賞、子力ダ賞、
北九州市民文化
賞を受賞し、日
本現代詩人会
から「先達詩
人」の顕彰を
受けた。



宗
左近

(一九二九～二〇〇六年)

北九州市戸畠区生まれ。本名 古賀照一
詩人・評論家・仏文學者 翻譯家。
東京大学哲学科卒業 詩集『炎える母』

この詩のコンクールは、北九州の生んだ詩人、
宗左近さんとみづかみかずよさんの業績を記念
して行われるもののです。

「あなたにあいたくて生まれてきた詩」は、
宗左近さんの編んだ詩集のタイトルから、「こと
ばはやさしく、こころはふかく」は、みづかみ
かずよさんのことばからいただきました。

目次

ごあいさつ

^小学生の部▽
「一人じゃない」

白い道
えかき

毎日いるクモ
けしごむおばけ
いつもいつしょに

空
人間

かめのププ
運命の歯車

こんぶ
おじいちゃんのでんわ
色と友達
たべちゃつた

石本	光歌子	2	1
金子	陽菜	3	
渕本	泰地	4	
荒木	蒼太	5	
西村	虎哲	6	
黒澤	礼紗	7	
久保	涼香	8	
春本	晃汰	9	
早川	依里	10	
亀川	彩花	11	
金子	朋奈	12	
秀島	和心	13	
上原	凜	14	
堀内	花真	15	
中野	頼希	16	

^中学生の部▽

海の一日

明日
はなび

虹の道
翼

目覚し時計

君がいるから
あなたと会う事
お母さんと私
片足のはと

三陸

「があちゃんどごほうび」
学生と時間と睡眠
初めての一本
私の存在

小嶋	花麟	18	
日南	瑠	19	
宮川	莉胡	20	
西原	菜奈子	22	
水島	知周	23	
戸川	美優	24	
大野	凜奈	25	
岡本	樹	26	
藤重	佳音	27	
中林	宏太	28	
福澤	良夢	29	
笠山	さくら	30	
山口	未遙	31	
共田	恵梨	32	

講評

小学生の部	受賞作品一覧
小学生の部	最終候補作品一覧
中学生の部	受賞作品一覧
中学生の部	最終候補作品一覧
中学生の部	最終候補作品一覧

「ごあいさつ

北九州市長 北橋 健治



第七回 「あなたにあいたくて生まれてきた詩」コンクールを受賞された小学生、中学生の皆さん、そしてご家族や関係の皆様に心からお祝いを申し上げます。

このコンクールは、本市出身の詩人である宗左近先生、みづかみかずよ先生を顕彰するとともに、子どもたちの豊かな表現力を伸ばし、未来の詩人や作家が誕生することを願い、平成二十二年から実施しているものです。

今年度は、市内外から九七三作品のご応募をいただきました。いずれの作品も素晴らしい、選考委員の皆様も選考には大変ご苦労されたと伺っています。また、鹿児島県や長野県、沖縄県など県外からも一二一作品もの応募があり、当コンクールが全国に広がっていることを主催者として大変嬉しく思います。

本市は、文豪森鷗外ゆかりの地であり、そのほかにも杉田久女、林美子、火野葦平、松本清張など、すばらしい文学者を数多く輩出しています。

このように、豊かな文化的土壤に恵まれた本市の魅力をこれからも全国に発信してまいりたいと考えています。

結びに、平出隆先生をはじめ、選考委員や学校関係者の皆様、コンクールの実施に当たりご尽力いただきました関係の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、このコンクールにご応募された皆さんの中から、将来、すばらしい詩人や作家が誕生することを心から期待いたします。

宗左近賞

最優秀賞

「あないたのような子は学校に必ず一人はいますから」という大人の無神経な言葉に傷ついた。でも今のわたしの周りには暴力と暴言でわたしを傷つける子どもはいないだからわたしは真っ黒に塗りつぶした部分が少しでも小さくなるようにやりたかったことを思いつきりすることにした。友だちとおしゃべりすること友だちと笑うこと友だちとケンカすること友だちと時間を過ごすこと友だちにとつてわわだちにいる特別で大切なことをしているわわだけの子ども時代をきりいな色で塗り直していく

「あなたのような子は学校に必ず一人いますから」という大人の無神経な言葉に傷つきそのまま大人の真似を子どもに苦しんだもう二度と戻ることができるきかない子ども時代の一部份をこわされたたくさん時間を使うわれたたからかわされたわだから

「一人じゃない」

長崎県佐世保市立 清水小学校 五年

石本

光歌子

白い道

北九州市立 中井小学校 四年 金子

陽菜

みずかみかずよ賞

最優秀賞

テレビをつけたら ふたりの男の人が
真っ白い道をならんで歩いていた
話もしないで まっすぐに前を向いて
ひとりは日本人
ひとりはアメリカ人
ずっとだまつて歩いている
シーンとして せみの声も聞こえない
白い道のとちゅうでふたりが立ち止まつた
そこには 広島の原爆いれいひがあつた
長崎の原爆資料館には行つたことがある
楽しかつた夏休みの終わりごろ
でもそこだけは 暗くて こわくて
ちよつとなみだが出た
資料館の時計は どれも黒こげで
みんなしづかに十一時二分で止まつていた
資料館を出たとき
もう二度とここには来たくない と言つたら
お父さんが
それでいいんだよ その気持ちは
もう二度とこんな戦争はしたくない
つて気持ちに きつとつながるからね
そう言えば
白い道を歩いてきたテレビの中のふたりは
いれいひにお花をあげたあと
少し頭を下げて目をつむつていた
何を考えていたのかな
わたしとおんじょうに
もう二度どこには来たくない
つて思つてくれていいたら いな
そしたら その気持ちは
もう二度とこんな戦争はしたくない
つて気持ちに きつとつながるから

北九州市長賞

えかき

宗像市立自由ヶ丘小学校 三年 潤本 泰地

かげはびんぼうなえかきだ。

なぜなら、黒一色しか持つていらないからだ。

反対に、かがみはお金持ちなえかきだ。

色々な色を持つている。

赤、青、黄、緑、電気の光さえも表げんする。

でも、字や体が反対に見える。

かげは右と左が正しい。

でも大きさがずいぶんちがう。

かげとかがみ

どつちが上手なえかきなのかな。

北九州市教育長賞

毎日いるクモ

北九州市立 若松中央小学校 三年 荒木 蒼太

このクモは、毎日いるクモ

ぼくのマンションの

エレベーターの近くにいるクモ

毎日学校に行くときや

学校の帰りも

習い事に行くときや

習い事から帰る時も

いつもいる

このクモは、

体がブーランブーランゆれていて

いつおちるのか

わからない

気になる、気になる

すごく気になる

いつおちる？

北九州市立文学館長賞

けしごむおばけ

北九州市立 牧山小学校 二年 西村 虎哲

ぼくは今日うそをついてママとパパにしかられた

ぼくはママとパパをけしごむで

けした

こわかつた

ぼくはどんどんこわくなつてきいた

えんぴつでママとパパを

書いた

そしたらママとパパがでてきた

ぼくはほつとした

これからはうそはつきません

佳作

いつもいつしょに

東京都八王子市立秋葉台小学校

五年

黒澤

礼紗

おばあちゃんはいつも
かさのことを
こうもりって言うよ
わたしはおかしくつて
クスクスと笑うの

あら、現代の子は言わないのね

おじいちゃんはいつも
どこやさんのことを
さんばつやつて言うよ

わたしは不思議に思つて聞いてみた
漢字でどう書くの

いつしゅん

きよどんとしたおじいちゃんが
カラカラと笑つたよ
そうか、現代の子は言わんな

わたしがいつも
バイオリンを弾いて
しばらくすると
おばあちゃんも
おじいちゃんも
さつきのメロディーを
はなうたでうたつているよ
わたしもうれしくなつて
いつしょにはなうたをうたうの
それからみんなで
顔を見合させて
ケラケラつて笑うよ

佳作

空

北九州市立 寿山小学校 六年 久保 涼香

空は、いろんな顔を持つている
朝の生き生きとした顔

夕焼けの切ない顔

夜の静かな顔

晴れの日の明るい顔

雨の日の暗い顔

雨上がりの前向きな顔

空は、いろんな顔を持つている

空は、全ての国とつながっている
イスラムの人々が見ている空も
アフリカの人々が見ている空も

私が見ている空も同じ空

空は、全ての国とつながっている

空は、歴史を知っている

環境の変化

生き物の進化

その中で起きたいくつもの争い

何億年も前から

空は、歴史を知っている

空は、大昔と今をつないでくれている
必ずそこについて、いつも私達を見守ってくれている

きつと

何十年先も何百年先も変わらないと思う

明日は晴れるかな

佳作

人間

北九州市立 広徳小学校 五年 春本 晃汰

人はなぜ歩けるの？

なぜ足を前に出すと歩けるの？

人はなぜ食べ物を食べないとおなかがすくの？
なにからかの伝達なの？

人はなぜ指が五本ずつあるの？

他の本数じゃダメなの？

人にはなぜ好みがあるの？

みんな一緒だと仲良くなれるのに：
でも：

みんな違うからおもしろいのかな？

なぜこんなギモンだらけの世界に僕達は住んでいるの？

答えを知っているのは誰なの？

神様だけなの？

他に答えを知っている人はいるの？

かめのププ

北九州市立 枝光小学校 四年 早川 依里

ゴールデンウイークに、家族で山口の海に石をどりに行つた。石をとつていたら小さな石がワカメにくつついた。手にとると三セントぐらいのカメだつた。

すぐに行つた。何の種類か調べた。すると海の中なのに、ゼニガメだつた。どうしてここにいるのかわからない。

べんとうばこの中に入れてもつてかえつた。

帰つてから水そうに石や水を入れてかうことにして。カメの図かんを見てみると、目の前にあるものにかみつくと書いてあつた。

毎日えさをやるときププとよんだ。ふちをコンコンとたたいてからエサをやつたら、一週間で、私のすがたや、友達のおとくんの声をきいたら、立ち上がつてエサをくれくれといつているようになつた。このププがきてから、いいことがあると、みんなが家の中でいいだした。

私もププとよんで、首をあげてくれるので、かわいくてしかたがない。

水をかけるとき、せなかのこうらをあらつてやつたら、じつしている。何でも生き物をかつたらいろいろとせわがたいへんだけどなついてくれるとどつてもうれしくてしかたない。いま八月になつて三ヶ月たちこうらが六センチにまで大きくなつた。

あつというまに大きくなつていつて いる。

私の家にきて、どんな気もちかな。

毎日せわして話もしている。

わかつて いるようにかおをもち上げてわたしのほうを見ている。

づつとせわして大きくしてあげるよ。

ププだつて私があんなひろい海でみつけたププだもの。なにかのえんだよね。

普いつまでもいっしょにいようね。

佳作

運命の歯車

北九州市立 高蔵小学校

六年
龜川

彩花

だれにだつて
それは一生とまらない
自分の行動によつてまわり方は変わる
だれにだつて
だれにだつて
運命の歯車がある
生まれる前からずっとある
もどりたくてもとまらない
だれにだつて
だれにだつて
運命の歯車がある
泣いて
笑つて
人それぞれの感情と共に
だれにだつて
人生が刻まれる
運命の歯車がある
人を愛して生まれる
歯車と共に
だれにだつて
人生が刻まれる
運命の歯車がある
人を愛して生まれる
歯車と共に
だれにだつて
人生が刻まれる
運命の歯車がある
人を愛して生まれる
大きさもまわるはやさも
人それぞれ
人は必ず同じ人はいな
だから人を愛せる
人間も
動物も
生きているもの全てが
歯車を心にもつて
だれにだつて
だれにだつて
運命の歯車がある
目には見えない
でも
運命の歯車がある
今日は明日も
まわつて
いる

佳 作

こんぶ

北九州市立 若松中央小学校 一年 上原

和心

こんぶは、

あさたべると

さつぱりします。

とくにおにぎりにいれると

おいしいです。

かぞくみんなこんぶがすきです。

こんぶのいろは、くろっぽいです。

ごまのかかつてるのがいちばんすきです。

こんぶのはなしをすると

たべたりました。

こんぶは、

おいしいです。さいこうです。

佳 作

雲

北九州市立 若松中央小学校 三年 秀島

凜

いつも 空からみてる

ゆつくり動いて見てる

どこを見るんだろう

わたしのことも見てるかな

山も海も家も

全部見てるかな

くつついたり

はなれたりして

楽しいかな

今も見ているよ

色と友達

北九州市立 若松中央小学校 六年 堀内 花真

チューーブの外に出る時がやつてきた。

一人一人の小さな部屋にわかれていって、
部屋でじつとすることにした。

時々、引っこす時がある。

筆にのつて、大きな部屋に引っこした。
たくさんのかたちに会える。

組み合わせた色がある。

でも、水がつめたく感じる。

たくさんのかたちができると、

筆にはこばれて、

真っ白な紙のうえを歩く。

紙のうえで休けいをしていると、

ちがう色に会う。

わたしと色がちがう。

少し話してみると、

色はちがうけど似ていることもあつた。

友達がいると休けいが楽しい。

水もあたたかく感じるようになつた。

たべちゃつた

北九州市立 牧山小学校

二年

中野

頼希

やつたあ

できてよかつた

ぼくが、はつけん。

なかなか、できないんだね

できないと、しんぱいしたよ。

えだまめ

えだまめ

おいしそう

そのまままたべたら

にがかつた。

こんどは

きつと

おいしいぞ。

ぼくの、えだまめ。

海の一日

福岡教育大学附属小倉中学校 一年

一
年

小嶋

花麟

太陽と大地が近づき始める
永遠につづく地平線
まるで黄金の糸

静熱砂光
かと浜を
だ光はが
つを光る
た一をし
や身吸は
どにいめ
まか浴始る
りびめ
達る
は

身につける貝を探し始める
息をするために砂から出てきたかには
あわてて砂浜を走り回る

人 は 引 き よ せ ら れ る よ う に
海 へ 行 く
入 道 雲 と 一 緒 に
黄 金 の 風 船 も 笑 う

あわてて水の奥深くまでもぐる
立つと光をみつかり吸い込んだけれど
ソースにせいちり吸い込んだけれど
そのうちに絶えそうになくなる
それぞれが友人、恋人、家族との
樂しき時間を使ふ
いつのまにか過ごしていり
黄金の風船は黄金のビー玉に変わり
一瞬のうちに落ちる

最優秀賞 宗左近賞

最優秀賞

明日

福岡教育大学附属小倉中学校 三年 日南

瑠

最優秀賞

みずかみかずよ賞

とそ体明明何別そ今何
てう驗日日がのし日億
も思ではは選一ての通
樂しみに得体の知れ
うと、第何番目の過ご
るのだろう。ごし方を
通りを選び、体験する。
明日体験する。未知の
の世界。私はますた、
みんな知らない。

だ今だ夜妹布夜、
つ日け空の団
てのどに寝に寝る。
‘私に輝く三つの星。
明日何に心を動かされ
て寝るのかは、
私は分からな。明
日は何億通りもあるから。

だ今だ群遊朝学校
つ日けれどはちがう
てのどでつはから帰る。
‘私は飛ぶカララス。
明日何に目が留まるかは、
私は分からな。明
日は何億通りもあるから。

だ今だ友鮮食昼、
つ日け達にや材お弁當を
てのどと広かのがる味どり、
‘私は明日何を楽しむ
ての私には分からな。明
日は何億通りもあるから。

だ今だせお心朝学校
つ日けし地日校を行
てのどと勤く小さなすめの
‘私は明日何を見て、何を思
ての私には分からな。明
日は何億通りもあるから。

だ今だあ朝鳥元朝
つ日けわごの氣太陽の光で、
てのどだしたはさな目
‘私は明日何によつて目覚めるかは、
明には分からな。明日は
何億通りもあるから。

北九州市長賞

はなび

九州国際大学付属中学校 二年 宮川 莉胡

宮川

莉胡

カウンントダウンが始まつた
私はスマホのカメラを準備する

1:

ひゆ／う

スマホの画面の中で一つの光が

くねくねと泳ぐ

どお／ん

はなびがひらいた

同時にシャツタ一音が

鳴り響く

スマホからはみでた散りかけの光に

私は感動した

スマホの電源を切つた

はなびはスマホの画面越しに見るものじゃなく
自分の目で美しさを感じるものだつた

打ち上げ音が心臓の奥にまで

響いてくる

はなびは華美だと思う

華やかに咲いて美しく散つていく

みんなの顔がはなびに染まつたように

七色に映る

はなびが全て散つた

はなびが全て散つた

残つたのは
空にかかるグレーの煙と。
私の瞳に焼き付いたはなびの残像と。

ひとり置いていかれたような
さびしさだった。　れい

北九州市教育長賞

翼

北九州市立 熊西中学校 三年

匿名希望

翼を持つ鳥は不自由だ
空を飛ぶこと、人はまるでそれが自由と
言うけれど鳥のようにはなりたくない
鳥は飛ぶために大切なものを捨ててている
体を羽毛で覆い、翼をはためかせて
はじめて空を飛んでいる

子供の頃に手を引いて歩いてくれた両親
転んだ時に手を差しのべてくれた友人
彼らと手をつなげないなんて

彼らの温かさを肌で感じられないなんて
なんて鳥は不自由なんだろう

鳥は飛ぶために他のものも捨てた

それは酷く辛いこと
それはとてもとても可哀相なこと

僕はそう思う
僕は空など飛べない人間であつて良かつた

不自由な人間であつて良かつた

僕はそう思う
もし今、僕が鳥だつたら

もし今、僕の両手が翼だつたら
そう考えると恐ろしくてたまらない

もし僕が鳥だつたら
この両の肩からつながるもののが翼だつたら
僕はきっと大切なものを失つていた

手でしつかりつかみ
その肌で熱を感じられる
こんなに幸せなことはない
僕はそう思う

もし僕が鳥だつたら
この両の肩からつながるもののが翼だつたら
僕はきっと大切なものを失つていた

その肌で熱を感じられる

こんなに幸せなことはない

僕はそう思う

虹の道

北九州市立 曽根中学校 三年 西原 菜奈子

電車は走る
線路の上を
たたかんたんと
ただ規則的に
途中の駅で止まつても
途中の道が分かれても
予定通りに
ただ走るだけ
かたつむりは歩む
草土の上を
石の上の上を
ただもくもくと
不規則に
たたかんたんと
途中で夕立に流されても
途中で木の葉にさらわれても
またその地点から
歩むだけ
電車は進む
次の駅へと
かたつむりは歩む
あてのない所へと
電車は走る
目的地があるから
かたつむりは歩むら
きつと
電車が一時間かけた道のりを
かたつむりが一時間かけた道のりを
電車は三秒で進むだろう
でも私は
かたつむりになりたい
だつてほら
後ろを見てごらん
自分で選んだ道のりは
確かに刻まれていい
無機質なまつすぐの二本の鉄なんじやなく
やら輝くますがりくねた虹の道となつてく
だから私は
かたつむりになりたい

目覚し時計

作新学院中等部

一年 水島

知周

ジリリ ジリリ ぼくを起こす

ありがたいような めいわくなような
まじめなヤツ

いつも五時三十五分に ぼくの耳元で

まちがいなく歌いだす

アラームをとめて

もう一度 夢の中へもどりたいぼくに
心配性な彼は また歌い出す

仕方ないな 起きようか

ぼくはベッドから 立ち上がる

今日も朝がやつてきた

呼んでもいないのに

いつの間にか

そこにいた

目覚し時計に留守番をさせて

ぼくは一日をはじめる

君がいるから

鹿児島県指宿市立 南指宿中学校 三年 戸川 美優

今日は何だか変な気持ち

朝からずつとドキドキしている

「顔赤いよ」 つて笑われた

「分かってるよ」 つて言つてみた

なんでだろう素直じゃないな

「君がいるから」 つて言えなかつた

私の気持ち伝えたかつた

君の気持ち聞きたかつた

こんな自分嫌になるな

今日は何だか変な気持ち

夜までずつとドキドキしている

お母さんと私

九州国際大学付属中学校 一年 大野 凜奈

私は今、思春期真っ最中。

最近ちょっとしたことでイラライラしたり、反発してしまう。
それは特にお母さん。

さあ、今からやろうと思つている時に限つて

「勉強した？」

「宿題は？」

と言われる。

まるで嫌がらせの様に、タイミングが良すぎて
「あー、もう嫌だー。」

と思つてしまふ。

いつか、お母さんと大喧嘩した時のことを思いだした。
その時は、とても反発した。

私は、本当にイライラして、つい

「グレてやる。」

と言つた。

お母さんは少し悲しそうな顔になつた。

そして一言こういつた。

「なら、お母さんは、ボケてやる〜。」

一瞬時が止まつた感じがした。

でも、すぐに

お母さんと二人で大笑いした。

今までのイライラしていた自分の気持ちは、
もう、どこかに消えていた。

こんな、お母さんの事がやっぱり私は大好きだ。

これからも、反発することが沢山あるだろうけど、
お母さん、これからも宜しくお願ひします。

あなたと会う事

九州国際大学付属中学校

一年 岡本

樹

ガリガリ君が当たる確率 25分の1

裁判員に選ばれる確率 5千分の1

自動車事故で死ぬ確率 1万分の1

飛行機が墜落する確率 20万分の1

雷に打たれる確率 1000万分の1

自分が生まれる確率 3億分の1

あなたと会えた確率 70億分の1

この確率が本当だとしたら

毎日が奇跡に満ちあふれている

そして僕たちは この幸せな毎日を

何気なく すごしている

佳 作

三 陸

九州国際大学付属中学校 二年 中林 宏太

日が昇つて、日が沈む

ただそれだけで大切なものの

穏やかな海面に光が反射する

丸い島々、断層、松

この海が数年前、牙をむいた

どこから来た、と笑顔の人々がきく

この人々の生活を津波が襲つた

仮設住宅の人々が作った文鎮

プレハブの商店街の食事はおいしかつた

赤土の広がり

更地の中に一つ残つた庁舎の鉄骨

新しい道路

一步一步しか進まない日々を

三陸の人々は、前へと歩く

海と共に

かあちゃんとごほうび

明治学園中学校 三年 藤重 良夢

かあちゃんは八十八才のおばあさん。でも、あまり自分のことをおばあさんだとは思っていない。鏡を見て、自分の顔のしわの多さに驚いて髪の白さや毛量が少なくなってきたのをやたらと気にしたり；なかあちゃんは比較的、明るい色の服を好む普通のおばあさんが着るような落ちついた色合いのものをすすめると、「老ける、年よりくさい」と言う。

そう、かあちゃんは認知症。かあちゃんは沢山のことを、どんどん忘れていく。ご飯のたき方、洗たく機の使い方、テレビのつけ方、消し方、エアコンのスイッチもわからない、今日がいつなのかもわからない。でも、たまに思い出す。

だから家には大きいサイズの服がある。でも、今はそれが誰の服だかわからぬ。不思議になるらしい。

さああちゃんの毎日は宝探しゲーム。

誰かが家に入つてきて、盗んでいつたんじやないかと思う。死んでいた、何人死んだのか、なぜかんだけわからぬ。

死んでいた出来事、苦しかったこと、悲しかったこと、嬉しかったこと、細くなつていいく。そして、母に向かつて言う。「どうしてこんな病気になつたんやろう。何のバチが当つたんやろうか、何か悪い事したんやろか。」

「何がバチね。ごほうびやろ。神様が人生の終わりにごほうびをくれたんやろ。こんな事でもなければ毎日毎日、忙しくてもこうべやくしてかんやろ。こんなことを第一優先にしてやつて来て、沢山おしゃべりして全部テキパキできるなら、きっと私は一週間に一回か二週間一緒にとどける。こんな事でもなれば毎日毎日、忙しくてもこうべやくしてかんやろ。こんな病気になつたんやろう。何のバチが当つたんやろうか、何か悪い事したんやろか。」

さあ、が新鮮な一日の始まりだ。さあ日が新鮮な一日の始まりだ。そりセットされると、元気にデイケアに行く。かあちゃんの毎日は毎日が新鮮な一日の始まりだ。

学生と時間と睡眠

北九州市立 大谷中学校 二年 篠山 さくら

「寝らずに生きていたらな」と
中学生になつてからよく思う。

時間が足りない。
やりたい事、やらなくてはいけない事、
したいけど足りない。
どうしても足りない。

でももし、寝なくとも良いのなら
今寝ている六時間は、何をして過ごそう。
夢がふくらむ。

でも、寝てゐる間に頭の中が
整理されるんだとか。

動いて疲れたら、
どうやつてその疲れをとろう。
なんて考えてると

あれ、やつぱり睡眠は必要なのかもしれない
と考えてくる。

そんな感じで、また私の一日が始まる。
寝る瞬間はとても幸せな気持ちになつて、
寝られて良かつた。
そう思う。

けれど私は今日も
布団の中で一人思う。
「寝らずに生きていたらな」
と。

初めての一本

北九州市立 熊西中学校

一年 山口 未遙

初めての竹刀

初めての袴

初めての防具

初めての面

初めての練成大会

初めての経験

私の胸は高まつた

足が竦む 惨い

相手の隙が見えた

今だ

体が勝手に動いた

旗が上がる

初めての私の一本

佳作

私の存在

北九州市立 熊西中学校

二年 共田

恵梨

あなたは私のことで怒った
あなたは私のことで喜んだた
あなたは私のことで泣ついた
あなたは私のことをほめた
あなたは私のことをほめました

こんなにも私のことを好きでいる人がいる

あなたは私のことで怒った
あなたは私のことで喜んだた
あなたは私のことでムカついた
あなたは私のことを笑つた
あなたは私のことを悪く言つた
あなたは私のことを無視した

私のことを好きな人
私のことをきらいな人
両方いて当たり前

私のことをきらいな人がいるのは
つらいいし
私のこといいけれども
両方いて当たり前

私はあなたとけんかした
私はあなたと喜んだ
私はあなたと泣いた
私はあなたと笑つた
私はあなたとほめ合つた
私はあなたと感謝する
私は今ある大切なものを大切にしていく

平出 隆

小学生の部の宗左近賞は石本光歌子さんの「一人じゃない」です。この詩は、強い心と強い言葉でできています。けれどもこの強さは、大変こわれやすいあぶない状態を、自力で切り抜けることによつて得られた強さだということも読み取ることができます。

生命が、自分を襲う危険とたたかうことによつて勝ち得た強さは、同時に美しさでもあります。この美しさは、理不尽なものへの怒りを抑えながら、しかもその怒りを失わずにいることの品位にも由来します。

みずかみかずよ賞は「白い道」の金子陽菜さんです。この詩の構成には感心しました。第一連では、テレビの中の日本人とアメリカ人の二人が、広島の原爆慰靈碑の方へ黙つて歩いていき、その前で立ち止まります。

第二連は個人的な経験をめぐるもので、長崎の原爆資料館にお父さんと行つたときのこと。自分の感想に対するお父さんの言葉どう、二人の会話がこの詩の鍵になります。

第三連は「テレビの中のふたり」へ戻ります。第四連では彼らの気持ちが自分の抱いた気持ちと同じだといいな、と展開します。そして最終連に至つて、お父さんの言葉が「わたし」に深く受け止められたことが分かります。二つの別々の場面がつながるときに、そのつなぎの力がお父さんの、我が子への慎重で意味深い言葉からやつてくるところに、この詩のよさがあります。

中学生の部の宗左近賞は小嶋花麟さんの「海の一日」。太陽の変化ばかりか、砂浜の生物や海水浴に集まつた人間たちを、次々と軽快に観察していきます。太陽や星や月などの天体の運行から「やどり達」や「ソースのにおい」までもが、ひとつつの観察の中に盛りだくさんに、きらきらと入つているところがよいところです。

みずかみかずよ賞は日南瑠さんの「明日」です。学校へ行く一日を見つめる目が、とても丁寧です。一日のリズムを刻むように、詩の言葉が綴られていきますが、生活の豊かな細部を見つめれば見つめるほど、そのはしばしに「得体の知れない明日」が予感されます。それは不安であるはずですが、不安とは呼ばずに「とても楽しみになる」と強気に結ぶところに、清々しさが生れています。

これらの四作には、未来へと立ち向かおうとする力が、それぞれに違うかたちで息づいていました。



© Takashi Mochizuki / ©望月 孝

平出 隆

北九州市門司区生まれ。
詩人・作家・多摩美術大学芸術学科教授。装幀家、

造本家としても知られる。

一橋大学在学中より詩と詩論を発表しデビュー。1974年に仲間とともに版元・書紀書林を構え、翌年、詩誌「書紀」を発刊。70年代の詩的ラディカリズムの先端を担う活動を展開。詩集『胡桃の戦意のために』で芸術選奨文部大臣新人賞、散文作品集『左手日記例言』で読売文学賞、散文集『ベルリンの瞬間』で紀行文学大賞、評伝『伊良子清白』で芸術選奨文部大臣賞、藤村記念歴程賞など受賞多数。また木山捷平文学賞を受賞した小説『猫の客』が2014年、世界的ベストセラーとなった。

小学生の部

受賞作品一覧

宗左近賞 「一人じやない」 石本もとみかこ

最優秀賞
みすかみかずよ賞

白い道

金子陽菜 中井小学校
四年 長崎県佐世保市立清水小学校五年

最優秀賞
北九州市長賞

えかき

渕本泰地 宗像市立自由ヶ丘小学校三年

優秀賞
北九州市立文学鑑賞

毎日いるクモ

荒木蒼太 若松中央小学校三年

優秀賞
北九州市教育長賞

けしごむおばけ

西村虎哲 牧山小学校二年

佳作
北九州市立文学鑑賞

いつもいつしょに

黒澤礼紗 東京都八王子市立秋葉小学校五年

人間

春本晃太 広徳小学校四年

空

久川依里 寿山小学校六年

運命の歯車

亀川彩花 高蔵小学校六年

おじいちゃんでんわ

金子朋奈 中井小学校一年

こんぶ

上原和心 若松中央小学校一年

雲

堀秀島 高蔵小学校六年

色と友達

内花凜 若松中央小学校三年

たべちやつた

中野頼希 牧山小学校六年

学校賞

北九州市立 牧山小学校

北九州市立 若松中央小学校

北九州市立 若松中央小学校

北九州市立 若松中央小学校

中学生の部

受賞作品一覧

宗左近賞 海の一日

みずかみかずよ賞

小嶋花麟
宮川莉胡
日南瑠

福岡教育大学附属
小倉中学校三年

北九州市長賞 明日

北九州市立文学館長賞

西原菜奈子
戸川美優
水島知周

曾根中学校
三年

北九州市立文学館長賞

虹の道 翼

岡本佳音

九州国際大学付属
作新学院中等部

佳作賞 目覚し時計

君がいるから

大野凜奈

鹿児島県指宿市立
南指宿中学校三年

お母さんと私
あなたと会う事

林宏太

九州国際大学付属
中学校一年

片足のはと

藤澤佳音

九州国際大学付属
明治学園中学校

三陸

中林樹

九州国際大学付属
中学校二年

「かあちゃんとごほうび」

山口未遥

九州国際大学付属
大谷中学校

学生と時間と睡眠

笹山さくら

明治学園中学校
三年

初めての一本

中林宏太

九州国際大学付属
中学校二年

私の存在

共田恵梨

熊西中学校
一年

学校賞

鹿児島県指宿市立
南指宿中学校

北九州市立
熊西中学校

最終候補作品一覧

幸せ

一步

涙の雨。希望の虹。

夜空に咲く世界で一つだけの花

好き

不細工なてるてる坊主

中学生の部 応募総数718点

川畑瑛大

西田花乃

柳詰由季

今村妃花梨

秋永彩乃

鳥巣彬

熊西中学校三年

大谷中学校二年

熊西中学校二年

熊西中学校一年

九州国際大学付属中学校一年

選考委員

最終選考委員

平出 隆

二次選考委員

原田 曜子
鷹取美保子
山田まゆみ
江口 恵子
大川内英樹

一次選考委員

原田 曜子
鷹取美保子
山田まゆみ

第七回

「あなたにあいたくて
生まれてきた詩」

「シンクール

—ことばはやさしく、こじろはふかく—

平成二十八年度

作品集

二〇一七年二月二十八日発行

編集・発行

北九州市立文学館

〒八〇三-〇八二三

北九州市小倉北区城内四番一号

TEL 〇九三一五七一-一五〇五
FAX 〇九三一五七一-一五二五

印刷・製本 工ホツク(株)

※本書掲載の記事及び写真的
無断転載・複製を禁じます。

